

# 神の 人化 (3/5) : 神が一人の人 となり、 数の人 が神とされるのはど

:

明:

神が一人の人 となり、人はみな神の一部であるという信仰を持つ 宗教の例、そしてこれらの信仰の背 にある 理の概 。

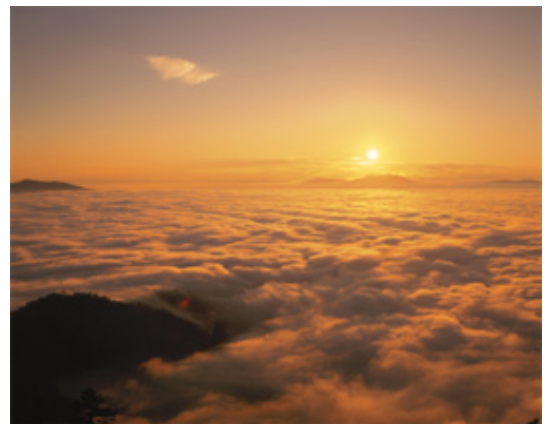
目:[事イスラ ムの信条神について](#)

より: ビラ ル フィリップス博士

日 07 Feb 2011

集日 07 Feb 2011

## 神が一人の人 に



神の というキリスト教の信仰は、古代ギリシャの信仰に元を辿ります。神が人 になるという用 はヨハネの福音 1: 1と14に、“

初めに、ことば (ロゴス) があった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。”そしてヨハネ の著者はこう述べます：“ことばは人となって

、私たちの に住まわれた。私たちはこの方の光を た。”ギリシャ の??は「ことば (word)」と されていますが、英 にはそれlogos

)に相当する が存在しません。その重要性は、元前六世 から 元三世 までに 用 として使

用されたギリシャ哲学の言 と、ユダヤ教、キリスト教思想家たち双方によって流用された事 に潜みます。

まずそれはヘラクレイトス（ 元前540 480年）によって宇宙の原理の表 として登 しましたが、アリストテレスの 代になると、 のない力であるnousとして取って わられ、それは物 的な力とされました。ロゴスは目的 の原理をロゴスと神であるとしたストア哲学者のシステムにおいて再 しました。アレキサンドリアで活 したユダヤ人哲学者フィロン（ 元前50年没）は、旧 の言 をストア哲学者のロゴスを用いて解 しました。それゆえ、ロゴスは神が世界でかれご自身を表 する方法として超越的な原理とされました。しかしロゴスは同 に 罪的 能も持ちました。それはより高い精神的性 へ通じる手段だったので。ヨハネの福音 においてロゴスは 造的であり 罪的でもあります。 者の 面は前者のそれよりもより く されています。

この信仰には 理が必要とされ、原罪 と なる 牲 といった概念が されました。アダムの罪はその子 にまで受け がれ、それはいかなる人 による 牲によっても いきれないほどに巨大なものとなり、神の 牲が必要になると主 されています。 って神には人 の息子があり、彼自身も神の であり、神そのものなのです。神の子はその 、人 の罪のため、神（つまり自分自身）への 牲として十字架で命を落とします。神である息子はその 活し、在は神の玉座の右 に座り、この世の わりに人 を裁くために待っているのです。よって人の5分の1であるキリスト教徒にとり、神は 史において一度だけ人 となり、彼の人 化についての信仰は救 において必 とされているのです。

## 人々が神に

イエスの人 性という 念から、彼が神であるというキリスト教信仰は一人の人 を神の地位に高めることと捉えることが出来ます。しかし、イスラ ムに追 する人々の中にも、ヒンズ 教や 教と同 、人 に神になる 会があるとする宗派があります。

彼らの信条は神秘主 に 端し、それは古代ギリシャの 々な神秘宗教にその起源を 出すことが出来ます。神秘主 とは神と 合する であると定 され、人の人生において最も重要な目的はその 合を求めることであると信じられています。ギリシャの哲学者プラトンは

この概念を彼の著作、特に「シンポジウム」の中で提言しています。その中で彼は、いかにして人の魂が精神的なはしごを上り、神と再び同一になることが出来るかを明しています。[2](#)

こういった信条の基となるものは、人はこの物的世界にじめられてしまった神の一部であるという教えなのです。物的な肉体は人の魂を宿すとしています。って彼らの信条では、魂は神性となります。この世界にじめられている神の一部は物的世界から放され、神と再合されなければならないといわれます。

ムスリムの中にもまさにこれと同じ概念をめぐらした宗派が生きました。その追者たちは「[3](#)」、彼らの信条システムは「[4](#)」

と呼ばれました。この用語は一般的に英で「神秘主義」または「イスラム神秘主義」と翻されました。それはギリシャの神秘主義と同じく、人の魂は神性であり、それが神と再合するには特定の精神的修行を行わなければならないという概念の上に成り立っています。イブン・スフィの集は「[5](#)」（道、または教）

と呼ばれるカルトに展しました。それぞれのカルトは、または特定の始者にちなんで名付けられ、メンバーがしくわなければならない独自の精神修行を持ちました。その大半は、追者が定された精神的感情的肉体的修行をすれば、神と同一になれるとされたのです。この同一性は、アラビアで「[6](#)」（融解）[3](#)、もしくは「[7](#)」

（[8](#)）と名付けられました。「神との合」という概念は主流のムスリム学者たちによって否定されましたが、一般大衆によって受け入れられました。10世のスフィ修行者アル＝ハッラジ（858-922）は彼自身が神であると公言し、イブン・スフィの著書「[9](#)」

という本などを著しました。その中で彼はこう述べています：「もしあなたが神を知らないのであれば、最低限かれのしるしを知らさい。私が究極的真であるのは、真によって私は永久の真であるからである。私の友であり教はイブリスであり、ファラオである。イブリスは地の火によってかされたが、それでも彼自身と神の何者をもめなかったし、私はされ十字架に磔にされ、手足が切断されたが、私は自らの主を取り消さない。」[5](#)

イブンアラビ（1240年没）は神との同一性をさらにし、神以外には何も存在しないと主しました。彼は著作の一つにこう述べています：「本としてありながらもすべてのもの

のを出されたかれに えあれ。g

の所ではこう いています：「かれは姿を せるあらゆるものの本 であり、かれが姿をみせているとき、かれは れたものの本 なのである。かれを るものはかれ以外にはないが、一人としてかれからは されていないのだ。なぜならかれが れているときでも、かれはかれ自身を表しになるからである。」7彼のこうした概念は??????????????

(存在の同一性) と呼ばれ、ムスリム世界のス フィ 界において人 を博しました。

## なぜ？

何が古代の人々に、神が人となったり、神と人が同一であるということ信じさせたのでしょうか？その根本的な原因とは、神が虚 からこの世界を 造したという理解と容の欠如です。彼らは神が彼ら自身と同 に、すでに存在するものから 造するのであると知 していました。人 は何かを るとき、すでに存在する物 の姿形を え、 う きをする物 に加工します。

例えば木 のテ ブルは 去、森林に存在する 木で、 やネジは地表下の 石から れる でした。人 は 木を切り倒し、木材を卓上や支柱の形にし、また 石を掘り出し、それを溶かして型に流し み、 やネジを作ります。それから各部品を み立てて 々な用途に使用出来るテブルを作り上げるのです。同 に、人が座るプラスチック の椅子は、 去には地球の深部に されていた液体である石油だったのです。

人 は かが椅子に座るように、石油に座ることを想像することが出来ません。

しかし、石油の化学成分を加工する人 の能力を通してプラスチックは精 され、人が座ることのできる椅子が 造されるのです。これは人 活 の本 であり、私たちはすでに存在する物 を に加工 形させているだけなのです。人 は 木や石油を り出しているのではありません。私たちは石油の生 に して しますが、それは には石油の 掘のことを指します。石油は何百万年もの昔に地 学的 程によって り出されたものであり、人 はそれを地下から掘り出し、精 しているだけなのです。人 は 木を 造したわけでもありません。たとえ私たちがそれらを植え付けたのであっても、 子という本 部分を り出した ではないのです。

って、人 は神の存在への 知から神が自分たちと同じような存在であると思ひ みがちな  
のです。例えば旧 約では、「神は人をご自身のかたちとして 造された。神のかたちとし  
て彼を 造した。」と されています。ヒンズ 教において???

は 造神であるブラフマ を人 化したものであり、人 が身の回りの世界の物 を加工するこ  
とによって物を 造することから、 造神も同じでなければならぬとされます。

ヒンズ 哲学において、????

はブラフマ の子 であり、二千の に千の目を持つ巨人です。彼からその女性の片割れで  
あり、 造 程の配偶者である????が 生しました。プルシャ神は 牲としての奉 (vv. 6-  
10) でもあり、その切断された肉体から四つのカ スト (ヴァルナ) が生まれたのです

。 [8](#)

「リグ ヴェ ダ」10:90に められたプルシャ 歌によれば、ブラフミンがプルシャの口であ  
り、クシャトリヤがその 腕、ヴァイシャがその 腿、そしてシュ ドラがその 足であつた  
とされています。 [9](#)

神がこの世界を虚 から 造したことに するヒンズ 教の理解の欠如は、神が世界と人 を自  
らの肉体から 取り出したという虚 の概念をもたらすことにつながったのです。

念や概念を理解する人 の能力には制限があり、それは有限です。人 は 限というものを  
把握し、理解することが出来ません。神がアダムに教えた信仰とは、神が虚 からこの  
世界を 造したということです。かれが何かの存在をお望みであれば、 に「在れ」と言  
う命令だけで 去に存在しなかったものが存在することになるのです。この世界とここ  
にあるものはかれご自身の体から 取られたものではありません。事 、神が自分の体から  
世界を 造したという概念は、神ご自身の存在を、他のものから何かを 取り出す、 造物と  
同じレベルまで引き下げることになるのです。こういった信条を 信じて、それに固 する人  
々は神の唯一性を捉えることは出来ないでしょう。かれは唯一 比であり、かれに似通  
ったものは何一つありません。もしかれが世界をご自分の体から 造したというのであ  
れば、かれは自らの 造物と似通った存在であるということになるのです。

---

Footnotes:

1 Dictionary of Philosophy and Religion, p. 314.

2 *Colliers Encyclopedia*, vol. 17, p. 114.

3 *Ihya' 'Uloom ad-Deen*, vol. 4, p. 212.

4 イスラ ムにおけるサタンの正式名称。

5 *Idea of Personality*, p. 32.

6 *Al-Futooha'at al-Makkiyyah*, vol. 2, p. 604.

7 *Fusoos al-Hikam*, vol.1, p. 77.

8 *Dictionary of World Religions*, p. 587.

9 *The New Encyclopedia Britannica*, vol. 20, p. 552.

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/575>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。